

当院回復期リハビリテーション病棟入院時の FIM 総得点からみた脳卒中患者の退院時の傾向

金子巧¹⁾³⁾、佐藤成登志²⁾、立石学³⁾、遠藤伸子³⁾、
崎村陽子(MD)⁴⁾

- 1) 新潟医療福祉大学大学院 医療福祉学研究所
- 2) 新潟医療福祉大学 理学療法学科
- 3) 新潟リハビリテーション病院リハビリテーション部
- 4) 新潟リハビリテーション病院リハビリテーション科

【背景・目的】リハビリテーション（以下、リハ）医療において、初期に予後を予測することは、目標やプログラムの設定、プロセスの管理、それらによる医療の質の向上、退院先の調整などにおいて不可欠な作業である。なかでも、医療の質の向上は2008年の診療報酬改定において、回復期リハ病棟に「医療の質に基づく支払い」制度が導入され重要課題となっている。2016年の診療報酬改定では、患者の回復のアウトカムに初めて機能的自立度評価表（Functional Independence Measure:以下、FIM）が導入された。また在院日数の短縮が同時に求められており、短い期間で質の高いリハを提供することが回復期リハ病棟に求められている。リハの質に関しては施設ごとにスタッフ数、リハ時間など構造が異なると言われている。そこで本研究では当院回復期リハ病棟における脳卒中患者を中心に入院時 FIM 総得点から退院時の傾向を後方視的に調査するとともに、今後の課題について検討することを目的とした。

【方法】対象は平成23年4月から平成28年3月までに当院回復期リハ病棟に入院した脳卒中患者530名を対象とした。入院時 FIM 総得点を5群（①25点以下、②26～50点、③51～75点、④76～100点、⑤101点以上）に分け各群の傾向を検討した。検討項目は年齢、性別、麻痺側、在院日数、退院時 FIM 総得点、退院時 FIM 運動項目、退院時 FIM 認知項目、FIM 利得（退院時 FIM 総得点－入院時 FIM 総得点）、FIM 効率（FIM 利得/在院日数）とした。統計学的検討を行い、有意水準は5%とした。また、各患者群で退院時移動能力に関して歩行獲得率、転帰先に関して自宅復帰率を抽出した。

【結果】入院時 FIM 総得点が25点以下の群では、退院時 FIM 総得点が低いのに対して、入院時 FIM 総得点が高くなるにつれ退院時 FIM は徐々に高くなり、101点以上ではほとんどが自立まで改善していた。表は入院時 FIM 総得点を群別してみた退院時の結果を示したものである。退院時の歩行獲得率(%)は①7.5、②9.6、③47.5、④63.2、⑤97.7であった。また自宅復帰率(%)は①16.9、②60.8、③77.8、④82.6、⑤92.4であった。

表. 入院時FIM総得点を群別にみた退院時の結果

退院時の指標	入院時FIM				
	①25以下 (n=53)	②26～50 (n=125)	③51～75 (n=122)	④76～100 (n=98)	⑤101以上 (n=132)
年齢(歳)	73.2	68.7	66.2	63.1	54.9
在院日数(日)	114.3	124.2	117.2	89.7	49.9
退院時FIM総得点	32.0	63.3	91.7	107.4	116.8
退院時FIM運動	20.0	42.7	62.5	75.2	85.0
退院時FIM認知	9.1	19.8	23.6	27.5	30.3
FIM利得	7.7	23.4	29.5	11.9	7.1
FIM効率(%)	6.7	18.8	25.1	13.2	14.2
歩行獲得率(%)	7.5	9.6	47.5	63.2	97.7
自宅復帰率(%)	16.9	60.8	77.8	82.6	92.4

【考察】入院時の FIM 総得点からみた脳卒中患者の退院時の傾向を検討した。入院時は多くの患者が歩行の獲得、自宅退院をニーズとしている。自宅退院には歩行の獲得が重要といわれている。本研究から退院時の歩行獲得率は50点未満では10%に満たないのに対し、50点以上となると50%以上の患者が歩行を獲得する傾向にあった。自宅復帰率は25点以上で60%程度が自宅退院するという結果であった。このことは入院時 FIM 総得点を層別化することにより、ある一定の傾向を導き、退院時の状態を予測できると考える。また当院では退院時歩行能力の予後予測として、入院から1カ月、2カ月時点の FIM 運動項目の点数が重要であることを明らかにしている。入院から1ヵ月ほどで FIM 得点を基準とし、入院期間を考慮し集中的なりハを提供することはリハの質の向上へ活用できると考える。しかしながら、退院時 FIM などリハ帰結、あるいはそれと強い関連をもつ交絡因子などは多くのことを考慮する必要がある。各患者群でより詳細な検討をして、予測の精度を上げていくことが今後の課題である。

【結論】入院時の FIM 総得点から退院時の移動能力、自宅復帰率を予測し、入院期間を考慮したより質の高いリハを提供できる一助となると考える。